

が無いと理解が難しい内容もあった。関連分野を専攻している大学生、あるいはそのような専門知識がある人がグループ内において、適宜補足説明ができる状況での市民グループ等における活用が適しているのではないかと感じた。もっともこれは、メダカの保全を実行するには、本書を読んで理解できるだけの専門知識、あるいはそのような人物による指導が必要ということでもある。本書がメダカをはじめ野生生物の保全に関心のある

方に広く読まれ、「この本を参考に保全をしたいのですが」と各地の専門家へのコンタクトの足掛かりとなることを願うものである。

(淀 太我 Taiga Yodo : 〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 三重大学大学院生物資源学研究所 e-mail: tyodo@bio.mie-u.ac.jp)

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌 68(1):68-68
2021年4月25日発行

海岸動物の生態学入門～ベントスの多様性に学ぶ～。—日本ベントス学会（編）。2020。海文堂出版株式会社，東京。256 pp. ISBN 978-4-303-80051-2。1,800 円（税別）。本書は日本ベントス学会の創立 30 周年を記念して出版された学術書である。本書には 20 名を超える日本ベントス学会の会員が執筆に携わっており、各章の本文を当学会の中堅研究者が、各章を彩るコラムを若手研究者が担っている。タイトルと執筆陣からわかるとおり、本書では多種多様な海岸動物、特にベントス（水底に生息する生物）の事例から生態学を学ぶことができる。図はいずれもカラーで掲載されているが、学生にも求めやすい価格に抑えられている。多くのページにはマンガ形式の解説やイラスト、および生態写真が散りばめられており、読者を飽きさせない工夫がなされている。大学生（新入生）に向けて「生態学入門」と表題を付したと思われるが、最新の事例に基づいた解説も多く、生き物好きから専門家まで幅広く満足できる構成となっている。

本書は 10 章で構成されており、第 1 章では本書が対象とする海岸の環境特性、本書で扱う生物（つまり、ベントス）の定義、およびそれらの基盤となる生態が略説されている。続く第 2 章から 4 章では進化、種内関係、生活史などのベントスの個体・個体群に着目した事例に焦点が当てられ、第 5 章から 9 章では種間関係、群集、物質循環などのベントスと環境（生物・非生物環境）との相互作用が扱われている。最後の第 10 章では海岸動物を取り巻く環境問題、およびその保全と利用が解説され、本書が締めくくられている。専門用語は章間で統一されており読みやすく、順を追って読み進めることで海岸環境における生態的な諸現象の基礎から応用までを体系立てて理解できる。また、日本周辺での研究事例が多く参照されている点、さらに学びたい人に向けてより高度な専門書をリストしている点も、多くの読者にとって嬉しい配慮であろう。海岸生態学の初歩を学びたい方は、まずは本書を

読むことを強くお勧めしたい。

第 1 章において「ベントスには、底生無脊椎動物に加え、ハゼやカレイなどの底生魚類と、アマモなどの海草やコンブ、ワカメなどの海藻のような底生植物も含まれている」と示されているとおり、一部の魚類はベントスに該当する。ただし、本書では底生無脊椎動物を中心に解説がされており、魚類の事例は相対的に少ない。例えば、移動性の低いベントスを扱うため、季節や成長に伴う生息地間の移動（つまり、回遊）などの生態は取り上げられていない。しかし、魚類と密接に関わる底生無脊椎動物や底生植物も非常に多く、これらの理解がひいては魚類生態の理解につながることは言うまでもないだろう。また、魚類ではあまり扱われない生態が本書では解説されている。例えば、生物攪拌（第 8 章）は魚類でも注目されているが、底生無脊椎動物では特に進展している分野であり、底質を介した物質循環（第 9 章）や底質環境の計測方法が詳細に示されている点は、ベントスの生態学書ならではと言える。これらの既往研究や分析技術は、魚類を研究する際に参考になることも多いだろう。底生無脊椎動物と魚類の共通点、あるいは相違点を整理することで学際的な研究へと発展するかもしれない。本書は底生無脊椎動物を主役としているが、魚類を愛し、専門とする本学会の会員にも手に取っていただきたい一冊である。

本書では様々な分類群のベントスが挙げられているが、これらは手つかずの海岸環境に暮らす希少種に限らず、我々の生活圏で出会うことができる種も多い。本書を読み、野外に出かけると、身近な自然にはベントスの特異な生態現象が溢れていること、まだまだ知られざる生態があることを改めて気づかされる。本書を通して、身近な海岸動物を、そしてその生態を尊び、研究する人が一層増えることを期待したい。

(小山彰彦 Akihiko Koyama : 〒 860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪 2 丁目 39-1 号 熊本大学大学院先端科学研究部 e-mail: koyamaakihiko15@gmail.com)